

令和 2 年 度

事 業 報 告 書

公益財団法人 広島原爆障害対策協議会

令和2年度

事業報告書

本協議会は、長年にわたり被爆者や市民の健康管理及び健康の維持増進に取り組んできており、令和2年度も引き続き、1)「被爆者の健康診断・健康管理事業」、「被爆者の健康管理に関する調査研究事業」及び「被爆者の援護福祉事業」、2)「市民の健康診断・健康管理事業」、3)「検査・診療事業」、4)「人間ドック健診事業」、5)広島市の指定管理者として本協議会が入居している「広島市健康づくりセンターの管理運営」及び「健康教育・子育て支援事業」等を実施した。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、健診・検査に係る事業の一時中止や健康科学館の臨時休館・規模縮小を余儀なくされた。なお、各事業の実施に際しては、検温の実施、パーテーション設置等の予防対策に取り組んだ。

また、受診者の減少を踏まえ、正職員の削減（医師等を除き退職不補充）等を実施した。

1 被爆者の健康診断・健康管理事業（公益事業1）

(1) 健康診断の実施

① 健康づくりセンターでの施設健診のほか、公民館・集会所等での出張健診を延べ308会場(※1)で実施した。

なお、令和2年4月17日から5月31日まで、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を踏まえ、広島市と協議のうえ、出張健診を中止した。(49会場)

また、出張健診において、廃止等した会場については、被爆者の高齢化等をふまえ、引き続き最寄りのバス停から近くの会場まで送迎を実施した。(送迎者数49人)

【健診場所別の受診件数】

(単位：件)

	施設(※3)	出張	計
一般検査	3,887 (82)	6,253	10,140
がん検診等(※2)	11,940 (189)	10,562	22,502
被爆二世健康診断	1,863	18	1,881

(※1) 単独：131会場、住民健診との合同：177会場

(※2) 胃がん・肺がん・乳がん・子宮頸がん・大腸がん検診（以下「5大がん」という）、多発性骨髄腫、骨粗鬆症検診の合計

(※3) ()内は、②の休日に受診した件数

② 広島市健康づくりセンターでは、引き続き平日のほか、第2・第4土曜日及び第1・第3日曜日の休日にも各種検診を実施した。(胃がん検診の内視鏡検査は平日のみ、乳がん・子宮がん検診は第3日曜日のみ実施)

受診者の減少をふまえ、令和2年度からは、第5土曜日、4月及び8月の土曜日及び日曜日（4月第3日曜日を除く。）の検診は行わなかった。

- ③ 被爆二世健康診断は、引き続き、受診の予約を市経由でなく本協議会が直接受ける方法により、広島市健康づくりセンター及び出張健診会場で実施した。
- ④ 「ひろしま市民と市政」（毎月1日号、15日号）や本協議会のホームページで、直近の出張健診の日程のPR等を行った。

【検査別件数】

（単位：件）

区 分		計 画	実 施 数	
被 爆 者	一 般 検 査	12,600	10,140	
	精 密 検 査	12,620	10,155	
	胃 がん 検 診	X 線	970	599
		内 視 鏡	600	470
	肺 が ん 検 診	6,920	5,850	
	乳 が ん 検 診	1,260	1,063	
	子 宮 が ん 検 診	950	769	
	大 腸 が ん 検 診	4,770	3,833	
	多 発 性 骨 髄 腫 検 診	8,520	7,356	
	骨 粗 鬆 症 検 診	2,830	2,562	
	被 爆 二 世 健 康 診 断 (※4)	2,210	1,881	
合 計		54,250	44,678 (計画件数の82.4%)	

(※4) 被爆二世健康診断は受診者数で表示

(2) 健康管理の推進

被爆者の高齢化を考慮し、次の事項を重点に取り組んだ。

① 悪性新生物の早期発見

広島大学大学院医歯薬保健学研究院、同原爆放射線医科学研究所、(公財)放射線影響研究所等の協力を得て、胃がん・肺がん・乳がん・子宮がん・大腸がん・多発性骨髄腫等の悪性新生物の早期発見に努めた。

② 生活習慣病及び高齢者に多い疾患の早期発見と指導

糖尿病・動脈硬化症・高血圧等の生活習慣病及び骨粗鬆症、サルコペニア(※)、認知症等の早期発見に努めるとともに、保健指導、栄養指導を行った。

(※) 進行性及び全身性の骨格筋量および骨格筋力の低下を特徴とする症候群

(3) 健康診断医療機器等の整備

検査機器の老朽化、検査ニーズの充実に対応するため、次の機器を更新・整備した。

- ① 超音波骨密度測定装置 更新 (204万円)
- ② 超音波診断装置 更新 (625万円)

③ 医用画像情報システム等 更新 (3,795万円)

また、令和4年度からの稼働に向けて、総合健診システムの構築に着手した。

(4) 被爆者健康管理資料の作成等

受診者の健診資料（健康診断個人票・がん症例報告等）を集計して、概要を本協議会の事業概要やホームページに掲載した。

また、調査研究資料として活用できるよう整理・保存した。

- ・ 健康診断個人票 58,614件

(5) 黒い雨体験者相談・支援事業の補助

国の黒い雨体験者に対する相談・支援事業を広島県、広島市の委託を受けて実施した。

- ・ 相談会 8会場、相談者 60人（うち市外分 1会場、相談者9人）

2 被爆者の健康管理に関する調査研究事業（公益事業1）

(1) 調査研究の継続実施

本協議会での検診データを活用して、被爆者の糖代謝に関する研究、睡眠の量および質と各種疾患についての横断ならびに縦断調査等、平成29年度以前に実施したものに加えて、平成30年度に新たに着手した次の6項目の研究を引き続き実施した。

また、適宜、それまでの成果等を関係学会や医学雑誌、会報等で発表した。

- ① 加熱式タバコが喫煙に関連した自覚症状にもたらす影響についての検討
- ② 健診結果に基づく癌と生活習慣病に関する横断ならびに後向きコホート調査
- ③ 高齢者における血清NT-proBNP値の意義についての観察研究
- ④ 高齢者における心血管危険因子と予後についての前向き観察研究
- ⑤ 中高年者における非空腹時脂質値に関する横断ならびに後向きコホート調査
- ⑥ 糖代謝異常症例における心血管危険因子と予後の検討

(2) 文献の収集

原子爆弾後障害に関する医学論文及び原爆関係図書等の資料を収集し、その活用を図った。（令和3年3月31日現在の蔵書数1,044点）

(3) 第61回原子爆弾後障害研究会

令和2年6月7日（日）、長崎原爆資料館において、「第61回原子爆弾後障害研究会」が開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止となった。

3 被爆者の援護福祉事業 (公益事業2)

(1) 被爆者相談の実施

広島市の協力の下、被爆者相談を行った。

区 分	件数(件)
生活・福祉相談	80
健康・医療相談	14
原爆関係諸制度	27
被爆者の子の相談	48
そ の 他	25
計	194

(2) 援護措置の実施

本協議会独自で次の援護措置を行った。

援護措置区分	件数(件)
生活困窮者援護金	0
被爆身障者見舞金	19
福祉用具利用料補助	253
計	272

4 市民の健康診断・健康管理事業 (公益事業1)

(1) 高齢者医療確保法に基づく健康診査等(広島市委託分)の実施

① 特定健康診査等の実施

健康づくりセンターでの施設健診のほか、公民館・集会所等での集団健診を延べ228会場(※1)で実施した。

なお、令和2年4月17日から5月31日まで、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を踏まえ、広島市と協議のうえ、出張健診を中止した。(21会場)

【健診場所別の受診件数】

(単位：件)

	施設(※3)	集 団	計
特定健康診査等(※2)	9,399 (611)	2,512	11,911
後期高齢者健康診査	2,554 (87)	1,461	4,015

(※1) 単独：51会場、

被爆者健診と合同：177会場(うち93会場は胃がん検診も実施)

(※2) 医療保険未加入者分(193件)及び被用者保険加入者分(1,289件)を含む。

(※3) ()内は、②の休日に受診した件数

- ② 広島市健康づくりセンターでは、引き続き平日のほか、第2・第4土曜日及び第1・第3日曜日にも健診を実施した。

働き方改革を鑑み、年間で受診率の低い第5土曜日、4月及び8月の土曜日及び日曜日（4月第3日曜日を除く。）の健診は行わなかった。

- ③ 特定保健指導

特定健康診査等の健診結果に基づき、栄養士等による生活習慣改善のための支援として特定保健指導を実施した。

【実施件数】

(単位：件)

	動機付け支援	積極的支援	計
特定保健指導	350	179	529(※4)

(※4) うち特定健康診査等受診日に実施：519件

- (2) 健康増進法に基づくがん検診等（広島市委託分）の実施

- ① がん検診等の実施

健康づくりセンターでの施設検診のほか、公民館・集会所等での集団検診を延べ337会場(※1)で実施した。

なお、令和2年4月17日から5月31日まで、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を踏まえ、広島市と協議のうえ、出張健診を中止した。(39会場)

【検診場所別の受診件数】

(単位：件)

	施設(※3)	集団	計
がん検診等(※2)	41,803 (3,347)	19,572	61,375

(※1) 単独：101会場、

健康診査等と合同：236会場（うち50会場は5大がんも実施。受診件数：8,921件）

(※2) 5大がん、骨粗鬆症検診、肝炎ウイルス検査の合計

(※3) ()内は、②の休日に受診した件数

- ② 広島市健康づくりセンターでは、引き続き平日のほか、第2・第4土曜日及び第1・第3日曜日の休日にも各種検診を実施した。(胃がん検診の内視鏡検査は平日のみ、乳がん・子宮頸がん検診は第3日曜日のみ実施)

働き方改革を鑑み、年間で受診率の低い第5土曜日、4月及び8月の土曜日及び日曜日（4月第3日曜日を除く。）の検診は行わなかった。

- ③ 医療機関からの依頼による胃内視鏡検診の二重読影を行った。(1,271件)

- (3) 感染症法に基づく結核健康診断（広島市委託分）の実施

【健診場所別の受診件数】

(単位：件)

上記(2)の肺がん検診受診者数を含む。

	施設	集団	計(※)
結核健康診断	8,128	4,309	12,437 (8)

(※) ()内は、結核健康診断の単独受診件数

(4) 健康管理資料の保管

精密検査実施者については、前後の検診データ（カルテ、心電図等）を含めて個人ごとにファイル化して（電子データはシステム内で）保管した。

- ・ ファイル化数 63,585 人分（令和2年度末現在）

【検査別件数】

（単位：件）

区 分		計 画		実 施 数			
特 定 健 康 診 査 等		15,680		11,911			
後期高齢者に対する健康診査		5,740		4,015			
特 定 保 健 指 導		676		529			
胃 がん 検 診	X 線	9,670	79,300	8,212	61,375		
	内 視 鏡	2,740		2,139			
肺 が ん 検 診		23,960		18,745			
乳 が ん 検 診 (※1)		8,520		5,861			
子 宮 頸 が ん 検 診 (※1)		6,870		4,788			
大 腸 が ん 検 診		18,470		15,224			
骨 粗 鬆 症 検 診		4,040		3,639			
肝 炎 ウ イ ル ス 検 査 (※2)		5,030		2,767			
結 核 健 康 診 断		16,790		12,437			
合 計		118,186		90,267 (計画件数の76.4%)			

(※1) 広島市の無料クーポン（女性特有のがん検診推進事業）分を含む。

乳がん検診：358件、子宮頸がん検診：25件

(※2) 広島県の肝炎ウイルス検査（68件）を含む。

5 広島市健康づくりセンターの管理運営事業（公益事業3）

平成30年4月から4年間引き続き広島市から指定管理者の指定を受け、協定書等に基づき広島市健康づくりセンターの管理運営と健康教育事業及び子育て支援事業を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、健康科学館を令和2年5月30日まで臨時休館とした。

また、5月31日以降も開館時間の短縮・入館制限・団体の利用制限・特別展の中止等、感染拡大防止対策として規模を縮小して開館した。

(1) 健康教育事業

健康科学館年間入館者数：7,518人 【計画：52,400人】

① 健康科学展示施設の運営

感染拡大防止対策や閉館の影響を考慮し、春の企画展の期間を延長して開催し、夏の特別展・企画展を中止した。

- ・ 企画展 年3回(延べ235日)開催 【計画:年4回】
企画展観覧者数:7,334人
- ・ パネル展 年12回
- ② 健康ライブラリーの運営
利用者の密集を避けるため、ライブラリーを使用中止した。
 - ・ 図書及びビデオを利用した学習の場の提供 利用者:0人
- ③ 健康に関する研修等の実施
広島市の方針に基づき、4・5・12・1月のイベントを中止し、その他の期間はイベントの規模を縮小して実施した。
 - ・ 主催による研修会・イベント 年34回開催 【計画:年46回】
参加者:514人
- ④ ボランティア(ヘルスサポーター)の養成・育成
 - ・ ボランティア養成講座 年1回(6課程)開催 【計画:年1回】
 - ・ ボランティア育成講座 年1回開催 【計画:年2回】
 - ・ ボランティア活動実績 年161回(延べ196人) 【計画:年430回】
- ⑤ 健康に関する情報の収集・提供
身近な健康情報を取りまとめてインターネットで提供。

(2) 子育て支援事業

- ① ファミリー・サポート・センター事業
保育施設への送迎や保育時間以外の自宅等での預かり等の子育てを援助支援する人(提供会員)の育成や、そのような援助を受ける人(依頼会員)とのマッチング等を実施した。なお、健康科学館の臨時休館中も実施したが、病児・病後児援助については中止した。
 - ・ 会員数:3,175人(提供会員:357人、依頼会員:2,768人、両方:50人)
 - ・ マッチング件数:635件
 - ・ 提供会員希望者への講習会(援助活動に必要な知識の普及) 年1回開催
- ② つどいの広場事業
乳幼児と保護者が、他の子どもや保護者と一緒に遊んだり、保護者同士の情報交換等の場を提供するとともに、子育て等の情報提供、講演会、ボランティアによる育児相談を実施した。なお、つどいの広場事業は令和2年6月7日以前及び12月12日から令和3年2月7日まで休止し、実施中は午前午後を利用を分ける二部制や予約制を導入し、感染拡大防止に努めた。
 - ・ 利用者数:2,685人(大人:1,424人 乳幼児・幼児:1,261人)
【計画:20,600人】
 - ・ 子育て等に関する講習会 年24回開催
- ③ パパとママの育児教室の開催
第1子妊娠中の夫婦を対象に、助産師によるアドバイスやオムツ交換実習等を実施した。当事業の対象者が妊婦であることを考慮し、教室の中止・参加者数縮小の対応をとった。
 - ・ 年13回開催 参加者:450人 【計画:年34回】

6 検査診療及び人間ドック健診等の事業 (収益事業)

(1) 検査診療等の事業

本協議会の健診等において、悪性疾患等が疑われた者に、確定診断等のための詳細な検査（CT・MRI・内視鏡・超音波検査等）を行った。（治療が必要な場合には、本人の希望に応じて外部医療機関に紹介した。）

また、広島市医師会員からの依頼に基づき生体検査（CT・MRI・超音波検査等）を行った。

【主な検査件数】

- ・ CT 検査 1,205 件（うち医師会員依頼 519 件）
- ・ MRI 検査 1,324 件（うち医師会員依頼 645 件）
- ・ 超音波検査 7,328 件（うち医師会員依頼 48 件）

(2) 人間ドック健診等の事業

- ① 人間ドック健診、生活習慣病予防健診、事業所健診等及びその結果に基づく栄養・運動指導を行った。

また、メンタル面での健診メニューとしてストレスチェックを行った。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年4月27日から5月13日まで人間ドック健診等を中断し、感染リスクを考慮して肺機能検査を中止した。

【健診別件数】

(単位：件)

区 分	計 画	実 施 数
人 間 ド ッ ク 健 診	1,843	1,821
生 活 習 慣 病 予 防 健 診	3,387	3,255
事 業 所 健 診	3,535	3,361
ス ト レ ス チ ェ ッ ク	760	687
合 計	9,525	9,124 (計画件数の95.8%)

- ② 管理栄養士・健康運動指導士が、健診結果等に基づき、受診者一人ひとりに適した栄養・運動について指導・助言を行った。

【検査別件数】

(単位：件)

区 分	計 画	実 施 数
栄 養 ・ 運 動 サ ポ ー ト	211	178
健 康 サ ポ ー ト	72	45
合 計	283	223 (計画件数の78.8%)

(3) 軽度認知症等の早期発見の見地から、以下の検査を行った。

【検査別件数】

(単位：件)

区 分	計 画	実 施 数
あたまの健康チェック (早期認知機能低下の早期発見)	150	86
ロコモチェック (運動機能低下の早期発見)	60	27
合 計	210	113 (計画件数の 53.8%)

7 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

(1) 放射線被曝者医療国際協力推進協議会への協力

- ① 「放射線被曝者医療国際協力推進協議会 (HICARE)」の主要団体として、被曝者医療を学ぶために来日した外国の研修生を受け入れていたが、令和2年度医師等受入研修事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。
- ② 令和3年2月11日にオンラインで開催された「被曝75年・HICARE 設立30年・福島事故10年国際シンポジウム」で、健康管理・増進センター前田亮所長がシンポジウムの座長を務めた。

(2) 来日被曝者の健康診断、医療相談等の実施

来日した被曝者の健康診断及び医療相談、被曝者手帳の取得に必要な手続きの相談など。

- ・ 相談者数 0人

8 事業報告の附属明細書

記載すべき事項はありません。